

知る人ぞ知る松山市民病院野球部



放射線室 課長 高橋 渉

松山市民病院野球部は、1989年に外科の渡邊医師（現臨床検査室顧問）が中心となって医師、コメディカルスタッフ、事務職員等からメンバーを募り、今年でなんと発足31年目になります。松山市民病院の名称は使用させてもらっていますが、福利厚生ではなく、野球好きな人達が立ち上げた野球部です。高校野球経験者の画像センターの藤原副技師長が4番ピッチャーでチームを引っ張り、渡邊医師も監督兼プレーヤーとして活躍しました。

現在は松山市草野球サファイアリーグに所属し、若いメンバーを中心に和気あいあいと活動しています。他職種のスタッフとコミュニケーションも図れます。女子選手の参加や応援だけでも歓迎しますので、興味のある方は画像センターの高橋までお問合せください。



摂食嚥下チームについて

リハビリテーション室 北村 広志

「摂食嚥下障害」と呼ばれる状態は、飲み込もうとすると、食物や水が気管へ入ってむせたり、むせなくても肺炎を起こしたり、食道へスムーズに入らずに喉に残ってしまうことなどが特徴的な症状です。

原因は、脳血管疾患やパーキンソン病などの神経・筋変性疾患、局所の器質的な疾患など多岐にわたり、高齢化社会が加速していく中で、摂食嚥下障害をもつ患者さんへの対応がますます重視されてきています。

このたび、院内に摂食嚥下チームが発足いたしました。メンバーは耳鼻咽喉科医師、リハビリテーション科医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士と多職種で構成されています。定期的なチームカンファレンスを通して、早期から各分野の専門的なテクニックを融合させることで、より質の高い医療の提供が可能となります。

輸液や胃管・胃瘻で栄養されていた患者さんが経口摂取を再開すると、にわかに元気を回復して生き生きとした表情に戻れることをよく経験します。「人が人らしく生きる」ために、一日でも早く食事を楽しんでもらうことを最終目標として、患者さんのQOLの向上に努めてまいります。



摂食嚥下チームのカンファレンスの様子

子どもたちのもうひとつの家として

えいらいキッズ 保育士 大塚 愛子



平成24年4月に松山市民病院から㈱マミーズファミリーが委託を受けて院内保育所「えいらいキッズ」の運用を開始し、平成29年11月の新園舎増築に伴い「松山リエール保育園」へと生まれ変わりました。

私たちマミーズファミリーは、「自己肯定感に溢れ、生きる力の強い子どもを育てる」を保育目標としています。保育スタッフは「昼間のお母さん」として、お子さんと愛着関係を築き、保育園を「子どもたちのもうひとつの家」と捉えて、各々の生活リズムを考えながら、ゆったり快適に過ごせるよう努めています。また、保護者の方にも安心して預けていただくために、日々の様子を写真に撮り、玄関に展示をしています。

年度末には、お子さん一人ひとりに手作りのアルバムをお渡ししています。楽しそうな笑顔や頑張っている姿の写真を選びながら、スタッフが思いをたっぷり詰め込んで作ります。「今年も楽しみにしていました」「子どもと毎日見えています」などの声を聞くと、来年度もお子さんや保護者の方に喜んでいただけるような保育をしよう!と力が湧いてきます。

今後も子どもたちとたくさんの思い出を作り、保護者の方と共有してまいりますので、よろしくお願いいたします。



ボランティア「白鷺」通信



桜咲く！
中庭で桜満喫してくださいね。
医療社会活動室



病院との交流会として、茶話会を開催しました。これからも、患者さんやご家族の力になりたいとの思いがいっぱいでした。



病院長が日頃の感謝としてボランティア白鷺メンバーにジャンパー＆ベストを進呈しました。



白鷺デザイン
フロアマネージャー
池田洋子